東南ア生産の労働者育成

テクノスマイル

東南アジア出身の工員を自社研修所で育成・派遣する（福岡県築上町）

車部品メーカーの海外進出を後押し

【福岡】自動車部品製造や人材派遣を手掛けるテクノスマイル（福岡県宮若市、馬見塚譲社長）は、自動車部品メーカーなどが東南アジアに進出するのを支援する事業を始める。母体となる新会社を人材派遣会社のアウトソーシングと設立し、現地の従業員を日本で育成して送り込む。人材派遣を拡大し、3年後の売上高を2013年3月期比で2・2倍の100億円に増やす。

5月初旬に新会社を設立する。資本金は3千万円程度でテクノスマイルが約7割を、アウトソーシングが残りを出資する。社名は「アジアMONOづくり研究所」（福岡市）で馬見塚氏が社長に就く。

新会社は自動車部品メーカーに対し、東南アジアへの進出の際に現地で提携できる企業を紹介する。また、生産管理手法「トヨタ生産方式」の指導も行う。

テクノスマイルはベトナムやタイなど東南アジア出身の工場労働者を福岡県築上町の研修所で教育し、国内の部品メーカーなどに派遣する事業を展開している。今後、部品メーカーの東南アジア進出を新会社が支援すると同時に、現地の工場労働者をテクノスマイルが日本で育成し、進出先の工場に派遣する事業を強化する。人材育成で現地生産を後押しする。

新会社の主な支援企業には九州の部品メーカーを想定する。完成車メーカーでは主力車種の海外移管が相次ぐ見通しで国内の生産台数は将来、減少しそう。九州だけでの成長が見込みにくくなるなか「人件費が安く、完成車メーカーの生産拠点もある東南アジアに進出しようとする動きが強まっている」（馬見塚社長）。

テクノスマイルはアウトソーシングのグループ会社。アウトソーシングが株式の約2割を保有する。テクノスマイルはトランク周辺の部品など自動車部品の製造が主力で、13年3月期の売上高45億円のうち6割を占める。部品製造で大幅な伸びが見込みにくくなるなか、海外への人材派遣を成長分野と位置付けて強化する。

ミャンマー市場に参入

三菱ふそう　トラック・バス販売

三菱ふそうトラック・バスは25日、ミャンマー市場に参入すると発表した。2013年7～9月期に大・中・小トラックと小型バスの輸出を始めじて、小型トラック「キャンター」や中型トラック「ファイター」、小型バス「ローザ」などを販売する。初年度、100台の販売を目指す。ミャンマーには、いすゞ自動車や日野自動車など日本のトラックメーカーも進出を検討している。乗用車メーカーでもスズキが10年に生産を休止したが、駐在員を常駐させており、生産を再開する計画だ。

経済成長を見込まれる

三菱自など3社、最高益

年ぶりに最高となった。14年3月期はさらに32%増の500億円を見込

社長直轄で改革組織

三菱自、リコール問題受け

三菱自動車は25日、国土交通省からリコール（回収・無償修理）対応の遅れを指摘されたことなどに対応し、社長直轄の全社的な組織を5月中にも立ち上げる方針を明らかにした。同日開いた決算記者会見で益子修社長は同問題について「経営が率先し、不退転の決意で改革に取り組む」と話した。

益子社長は国交省の立ち入り検査で新たな問題点を指摘されたことについて「関連する皆様に大変なご心配・ご迷惑をおかけしたことを改めておわび申し上げます」と謝罪した。

三菱自は社長直轄の「改革促進委員会」を設置し、組織体制を変えるために1年間の全社運動を行う。改革促進委員会の下には「品質」「風土」「業務品質」の3つのチームをつくり、開発、生産、国内営業担当の部門長がそれぞれのチームを管掌。今後の改善策を洗い出す。今後外部の目を取り入れるため社外の有識者も登用する方針だ。

益子社長は不具合が見つかり生産と出荷を中止している「アウトランダーPHEV」についても「1日も早い生産再開に向け取り組む」と説明した。

レートは13年3月期の1ドル82円から95円に、1ユーロは105円から125円

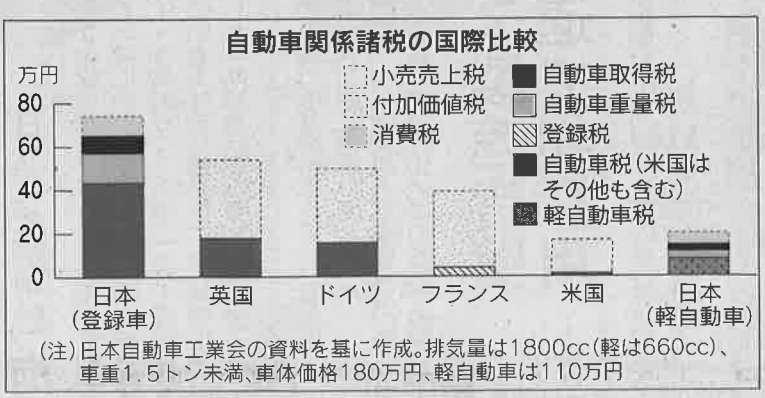
よる販売減や減価償却費の増加が見込まれるが、インドネシアでの販売拡

年度、

よくわかる　軽自動車④

欧米から撤廃要求根強く

日本独自の軽自動車の規格や登録車に比べ低い税率が「非関税障壁だ」として、欧米を中心に撤廃を求める声が強まっている。かつてトヨタ自動車など大手と軽メーカーとの間で軽の扱いを巡っ



（注）日本自動車工業会の資料を基に作成。排気量は1800cc（軽は660cc）、車重1.5トン未満、車体価格180万円、軽自動車は110万円

て業界が、会わり、なって

軽の協は2携協協議車は税すると指が、米ッグ米自動PC）に先進て「廃求項目

こ鈴木PPく、干渉発も前協ンダ欧州連済連も軽E